

## 施策評価調書(3年度実績)

				施策コード	I-5-(2)	
政策体系	施策名	人に優しい安全で安心な交通社会の実現	所管部局名	警察本部		
	政策名	安全・安心を実感できる暮らしの確立	関係部局名	警察本部、生活環境部、土木建築部		
				長期総合計画頁	49	

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	交通安全意識の高揚	交通秩序の確立	交通環境の整備	交通事故被害者等支援の充実

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する 取組No.	基準値		3年度			6年度	目標達成度(%)						
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125		
i	①②③④	H26	56	38	36	105.3%	35							
ii	①②③④	H26	6,670	4,400	2,832	135.6%	4,100							

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	達成	交通死亡事故の約4割を占める歩行者事故の抑止を図るため、関係機関と連携した体験型交通安全教育を行うとともに、交通事故発生状況の分析結果に基づき、交通死亡事故や重傷事故が多発する路線、エリアにおける交通指導取締りを重点的に推進した。その結果、交通事故死者数は前年よりも7人減少(うち歩行者は6人減少)し、目標値を達成することができた。	達成
ii	達成	交通ボランティアや関係機関・団体と連携した街頭啓発活動や、各種交通安全広報・教育を通じた県民全体の交通安全意識の高揚に向けた取り組みを推進した結果、交通事故件数は前年より77件、交通事故負傷者は前年より188人減少し、目標値を達成した。	

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の死亡事故は、道路横断中の事故割合が高いことから、横断歩道付近での運転マナー向上に重点を置いたテレビCMや、街頭・官公庁・銀行のデジタルサイネージを活用した広報活動を実施した。</li> <li>・参加体験型機材を使用した講習や75歳以上の高齢者に対する交通安全教育を実施するとともに、個別面接及び警察署窓口における案内等を推進した結果、5,060人が運転免許証を自主返納した。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の発生状況を分析し、横断歩行者妨害や速度違反等の交通事故に直結する悪質・危険な交通違反を重点とした指導取締りを行い、交通事故抑止を推進した。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交差点での車と歩行者の交錯を少なくする歩車分離式信号機を4か所(新規1か所、変更3か所)、信号灯器のLED式への更新を車両用103か所、歩行者用115か所整備したほか、摩耗した横断歩道の集中的な更新をはじめとした交通安全施設の整備を進めた。また、既存道路敷を利用して歩道幅員や路肩の拡幅など小規模な工事を行い、生活道路の利便性・安全性の向上を図った。</li> <li>・歩道の段差解消や路面改修など、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた歩道整備や、信号機の視覚障害者用音響装置などの整備を進めた。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通遺児(小中学生24人、高校生18人)の健全育成を図るため、入学祝金や家族ふれあい旅行助成金、高校生の育英支援金等の救済援護活動を実施した。また、交通事故被害者等による交通事故相談は301件となった。</li> </ul>

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(3年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	高齢者交通事故防止総合対策事業	137.3	90
①②	交通事故総量抑止対策推進事業	135.4	90
②	警察業務効率化推進事業	106.6	86
③	共生のまち整備事業	—	91
	(単)身近な道改善事業	102.0	91
	交通安全事業	—	92
	交通安全施設整備費	135.4	92
④	思いやりの横断歩道整備事業	135.4	92
	交通事故遺児救済援護活動助成事業	—	93

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○第1回豊後高田警察署協議会(R3.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横断歩道では、かなりの車が停止するようになったが、まだ安心して横断できないので引き続き活動をして欲しい。</li> </ul>	<p>○第3回大分南警察署協議会(R4.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(自転車の)マナーの問題は本人に拠るところが大きく、これは車のドライバーと一緒に思う。ルールを知らないことが一番問題だ。自転車を使う頻度が高いのは高校生の通学だと思うので、そこを優先させてルールの浸透を図った方がいいと思う。</li> </ul>
---	--

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故総量を抑止するため、関係機関・団体と連携し、横断歩道での歩行者優先等と呼びかける街頭啓発を行うとともに、SNS等多様なメディアを活用した広報や、各種シミュレーターによる参加・体験型の段階的・体系的な交通安全教育を通じて、県民全体の交通安全意識の高揚に向けた取り組みを強化する。</li> <li>・75歳以上の高齢者を対象に、高齢者事故の特徴や、安全性の高い車への乗り換え、運転免許自主返納を促すチラシを自宅に郵送し、高齢運転者対策を強化する。</li> <li>・「大分県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づき、若年層を中心とした自転車利用者に対する乗車用ヘルメット着用の促進や自転車事故防止対策を進めるとともに、事業者と連携した自転車損害賠償責任保険加入義務の周知など交通事故被害者保護対策を促進する。</li> <li>・高校生を対象に、自転車の安全利用等をテーマとした動画コンテストを開催し、動画の作成や、優秀作品のCM放映等を通じて若年層を中心とした交通安全意識の高揚を図る。</li> <li>・「大分県飲酒運転根絶に関する条例」に基づき、県民や関係機関・団体と連携し、「飲んだらのれん運動」や「ハンドルキーパー運動」等を展開して、飲酒運転をしない・させない・許さない社会環境づくりに努める。</li> <li>・交通事故分析の高度化を図るとともに、PDCAサイクルを効果的に機能させ、交通事故抑止に資する交通指導取締りを推進する。</li> </ul>